

「第6次知立市総合計画」第3回総合計画審議会 議事録

令和2年1月28日（火）

15:30～17:00

中央公民館 第1・第2展示室

【次第】

1. パブリックコメントに寄せられた意見と市の対応について
2. 答申

【出席者】（敬称略・順不同）

《委員》鈴木誠、竹本有基、神谷利男、近藤博子、澤邊泉二、神谷正明、酒井政則

越智さや香、水越良江、田中久美、宇納一公、石原國彦、新美文二、市川嘉恵

《市役所》市長、副市長、企画部長、企画政策課長 他

【議事概要】

司会進行：企画部長

1. パブリックコメントに寄せられた意見と市の対応について

事務局より、資料に基づいて、パブリックコメントに寄せられた4件の意見と市の対応について説明を行った。意見は以下のとおり。

竹本有基委員	1番目の意見は、特に土地利用の「産業ゾーン」の説明にある「工業を中心に、一団の農地を活用し、新たな産業誘致を図りつつ～」の箇所に対して意見を言われたと思われます。計画の修正は困難かもしれませんが、申し出の意見は尊重しなければなりません。 資料の中の“市の考え方”に「農業関係者等と調整をしながら、計画的な土地利用を図っていきます。」と記載があるとおり、計画を推進するうえでは、これを確実に実行していただきたいと思います。
石原國彦委員	都市計画マスタープランのパブリックコメントでも農業関係者から同様の意見がありました。都市計画マスタープランでは、産業促進拠点を①八橋東部地区②牛田インター付近③西中インター付近④上重原恩田地区⑤西町本田地区とし、74haの工業用地を確保するという数字を出しています。市内の農地は約400ha近くありますが、74ha減ってしまうと、農地を耕すことが仕事の営農団体の生活が苦しくなります。 また、産業促進拠点到該当している地元農家からは、自分たちの農地が工業用地に変わり、農業を続けられないのかという相談もあります。総合計画はあくまで施策の方針を決めているものであって、実施が決定したわけではないという説明をしていますが、このよう

	に捉えている人がいることは認識していただきたいです。 資料の中の“市の考え方”に「農業関係者等と調整をしながら、計画的な土地利用を図っていきます。」と記載があるとおり、これは是非やっていただきたいです。 今後は企業立地推進課が実行計画を作成して進めていくと思いますが、農業関係者や営農団体、農家、地域住民には、事前によく説明し意見を聞き調整しながら、産業を誘致するのか、そのまま農地とするのかよく話し合い決めてほしいと思います。
新美文二委員	知立市内には工業用地の受け皿となる土地がなく、市内事業者から相談を受けることもあります。知立市の課題として資金力が無いと度々話を聞きますが、豊田市や安城市や刈谷市は産業が根付いており、資金面の問題を解決しており人も集まっています。限られた土地をどのように活用するかは非常に重要な問題です。 人手不足が叫ばれる中、農業の在り方も根本的に見直す必要があり、生産性の高いものにする必要があります。従来型の農業・商業・工業に分類した考え方から脱皮し、先を見越したことをやっていかなければなりません。 知立市は人口が増えていると聞きますが、愛知県内は産業が集積しているため、多くの自治体は人口が増加傾向であり、豊田市や刈谷市でも人口は増えています。今後は市内の限られた土地を、農業・商業・工業が融合し一体となり、地域を盛り上げていくことが必要だと感じます。 また、今後はどの分野でも後継者問題が出てくるので、行政も課題として認識してほしいと思います。
会 長	3名の委員からご意見を頂きました。 私としては、農業の在り方を見直し、生産性の高いものを目指すと同時に、作られたものは安全なものであり、次の世代にとって健康面で良いものでなければならぬ事も前提に進めてほしいと思います。委員からの助言を個別計画で運用できるように、活かしていただきたいと思います。

2. 答申

会長から市長に対して答申書の提出を行った。

事 務 局	最後になりますので、委員の皆様からお一言ずつ頂戴できればと思います。
市川嘉恵委員	私は子どもたちが将来、知立市出身でよかったと胸を張って言える知立市であってほしいと思っています。今回の審議会を通して、皆

	で知立市の未来を考えて、創り上げていくことを実感できて良かったです。とても良い機会を頂けました。ありがとうございました。
越智さや香委員	普段は多文化共生や子どもの教育に携わっていますが、審議会では様々な意見を聴くことが出来て良かったです。ありがとうございました。
竹本有基委員	第1回目の総合計画で「スピード感を持って～」という意見があったかと思います。これで総合計画が改定されますが、スピード感を持って実施をしていただきたいと思います。ありがとうございました。
近藤博子委員	様々な資料を拝見して、もっと早くから総合計画に関われば良かったなと思いました。知立市は外国人比率が県内3位という話もありましたが、東小学校では、1年生の時からクラスを分けて、多文化共生の取組をしています。外国人の子どもにとっても、住みやすくなり、「かがやくまち」になってほしいと思います。また、知立市制50周年を迎える中で、知立市は総合計画によってまちづくりが進められているというPRも併せて出来ると良いと感じました。ありがとうございました。
水越良江委員	知立市のことをよく知る良い機会でした。意見も発言出来たので、取り入れていただけると嬉しいです。ありがとうございました。
澤邊泉二委員	知立市の周囲には、「日本一の自動車会社がある豊田市」や「デンパークがある安城市」、「工業都市・刈谷」とあります。知立市にも光るものがあれば、それを磨いていかなければならないということをこの会議で学びました。 明るく楽しい生き生きとした知立市にするために、貢献出来る良い機会でした。ありがとうございました。
石原國彦委員	知立市は約4㎢四方と小さい市ですが、その分、何をやるにしてもすぐに実行が出来る市だと思います。総合計画は市の指針を示す大事なものであるため、出来る限りこの計画に沿って、住民の意見も聞きながらスピード感を持って、「かがやくまち みんなの知立」と誇れるようなまちづくりを目指してください。ありがとうございました。
新美文二委員	知立市は愛知県の中央に位置し、昔は碧海郡知立ということで、郡役所や法務局、税務署等がありました。人口や経済規模も刈谷市より大きかったのですが、現在では刈谷市や安城市に人口が抜かれている状態です。 今後は、知立市はどのようなまちであり、愛知県の中でどのような役割を果たさないといけないのか、広い視野を持って考えなければなりません。古くからある『八橋のかきつばた』や『弘法さん』、『知

	立神社』、『お祭り』等は昔の遺産であり、今後は総合計画で示したものを実行していき、知立市が目指すまちづくりを実現していかなければなりません。広い視野を持つためにも、今後も様々な分野の方から意見を聞く場を設けると良いと思います。ありがとうございました。
田 中 久 美 委 員	私自身、子育てをしていて知立市は子育てに力を入れている市だなと感じていました。今年度は、都市計画マスタープランの審議会にも参加させていただいていましたが、農業・産業・商業のそれぞれの立場の方がいて、知立市としては産業を発展させていきたいと考えているようですが、その他の分野の方とのバランスをとるのが非常に難しいと感じました。 今後、知立駅周辺の整備が進んでいくことや、市制 50 周年を迎えることを楽しみにしながら、知立市に住み続けていく予定です。大変勉強になりました。ありがとうございました。
酒 井 政 則 委 員	第 2 回の会議でも発言しましたが、知立市には交番が 4 か所ありますが、警察署はありません。治安面で不安があるため、引き続き警察に対し、警察署設置の要望をしていただきたいと思います。ありがとうございました。
宇 納 一 公 委 員	子供たちの教育環境について、東京都多摩市や滋賀県草津市は ICT 教育が進んでいますが、知立市は大変遅れています。もっと学校教育に予算を投入すべきと思いますが、市の財政が厳しいとの話もよく聞きます。知立市の友好都市である長野県伊那市では、2016 年から SB C&S という企業と、情報機器を通して深い学びを推進していくことに関して協定を締結しており、過去にはタブレットを活用して『Summer Camp in いな』という自然環境を大切にするイベントを実施しています。これは市長が以前に発言されていた SDGs の取組にも繋がるものと感じます。 知立市は予算が少ない中、どうしたらいいのかと常々考えますが、国の補助事業や企業との連携事業を積極的かつ実験的に進めていっても良いのではと思います。ありがとうございました。
神 谷 正 明 委 員	これまでの審議会を通して、市のまちづくりの中で農業と工業の両立は大変難しいと感じました。どちらを選ぶか迫られたとき、最終的には市の判断になると思いますが、知立市民にとってどちらが良いのかを真剣に考えてもらい、関係者とも話し合いながら決定していただきたいと思います。ありがとうございました。
神 谷 利 夫 委 員	知立町の時代から住み始めて、今年で 50 年になります。総合計画の改定に携わり、初めて見る内容も多くありましたが、非常に勉強になりました。ありがとうございました。

会 長	私は今回の審議会を進めるうえで、常に「国際化の中での知立市」を意識して、皆さんの意見を取りまとめるようにしました。具体的には、知立市と人口規模が似ているアメリカのミシガン州との比較をしました。ミシガン州は、市長が1人で、議員は5名ほど。職員は10名ほどであり、大部分の仕事は民間に委託しています。先ほど酒井委員から地域の治安の話もありましたが、ミシガン州の場合は警察に来てほしい人がお金を払ってきてもらい、治安面を守っています。次々と公共サービスを産業化・民営化しており、お金の払える人にとっては良いまちができています。しかし、会社を退職したり、ケガや病気をしたりすると生活が不安定になり、路頭に迷います。そして、まちとも無縁化してしまいます。 まちづくりに対して意見は言えるものの、一部の人たちの強い意見でまちが作られていく体制がずっと続けられてきました。公民パートナーシップはあるものの、関わる事が出来るのはほんの一握りの人間だけです。 それに対し、知立市は4㎢と非常にコンパクトで、産業界や教育界、市民団体、住民コミュニティ、行政等の色々な人たちの距離が近く、何でも言える距離感にあります。何をやるにしても、それぞれ複雑に絡み合っており、お互いが認め合わないに進むことができません。互いの声を聴き合って、全員が納得する施策を落とし込んでいくことが必要です。これからも施策を進める時には、周囲の意見を聞き、意見交換を重ね、コンパクトな自治体の強みを活かして協働のまちづくりを進めていただきたいと思います。愛知大学と知立市は連携協定も結ばせていただいております、研究者という立場からも、これからも知立市を支援できたらと思います。ありがとうございました。
市 長	全3回に渡ってご審議いただき誠にありがとうございました。 まず、警察署の件ですが、私も知立警察署がほしい思いがあります。毎年、議長と一緒に、①知立警察署の設置②西地区に交番設置③昭和交番の存続 といった3点の要望活動を行っています。 次にICT教育に関してですが、国は1人1台にパソコンを配布する方針を示しました。これを受けて、まだ計画段階ではありますが、令和元年度にWi-Fi環境の整備を、令和2年度に学校の先生方と教育ソフト等の選定を、令和3年度に小学5年生・6年生、中学1年生に1人1台のパソコンまたはタブレットを、令和4年度に中学2年生・3年生にパソコンまたはタブレットを、令和5年度にその他の学年にパソコンまたはタブレットを配布する予定です。 次に今回の改定で大きく変わった点で、産業誘致を進めていくことが挙げられます。これは財源確保に繋がるもので、今年度以小中学

	校の普通教室にエアコンを設置しましたが、非常に市の財政状況は厳しい状況にあります。美術室等の特別教室にエアコンは必要ですし体育館にも設置しなければなりません。学校の先生方や子どもたちに迷惑をかけていることを痛感しています。学校の教育環境を守ることは行政の責任とも感じていますので、農業関係者の方々にも丁寧に説明をし、理解を得ながら企業誘致を進めていきたいと考えています。 最後に、今回の改定により SDGs の文言も入れていただいています。持続可能な社会を作らないといけないという使命感を持ってまちづくりを進めていきます。 これからも皆様にご指導いただきながら、『輝くまち みんなの知立』～安らぎ・にぎわう 住みよさを誇れるまち～を実現できるよう、職員一丸となって進めていきたいと思ひます。ありがとうございました。
--	--

以上で終了